第３次南アルプス市総合計画
施策マネジメントシート

作成日：令和8年 7月17日
更新日：令和8年 8月 5日

政策No.	6	政策名	「地域で学び、地域に活かすまち」の実現	施策主管課	学校教育課
施策No.	30	施策名	学校教育の充実	施策主管課長名	内藤 共哉
施策関連課名		教育総務課、市立学校給食センター			

１ 施策の目的と指標

意図（この施策によって何をどう変えるのか）
・こどもの「学力」「心」「体」を育み、自立できる力を身につける。 ・安全で快適な学習環境を整える。 ・地域と連携し、教育と安全を推進する。

成果指標（意図の達成度を表す指標）		単位
1	「南アルプス市では、教育環境が整っている」と思う市民の評価	―
2	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」とする小中学生の割合	%
3	「運動やスポーツをすることは好きである」とする小中学生の割合	%
4	学校には教育活動に適した施設・設備が整っていると感じる保護者の割合	%

成果指標の測定方法 どのように実績値を把握するか		
	1	市民アンケート
	2	全国学力・学習状況調査『学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている』において、「あてはまる」または「どちらかというとあてはまる」と回答した小中学生の割合（小6・中3対象）
	3	全国体力・運動能力、運動習慣等調査『運動やスポーツをすることは好きである』において、「好き」と回答した小中学生の割合（小5・中2対象）
	4	学校評価アンケート『学校には教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか』において、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した保護者の割合

２ 指標等の推移

指標名			単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画				
					R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度
成果指標	1	「南アルプス市では、教育環境が整っている」と思う市民の評価	―	目標値	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8
				実績値	3.2									
	2	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」とする小中学生の割合	%	目標値	79.1	79.2	79.3	79.4	79.5	79.6	79.7	79.8	79.9	80.0
				実績値	85.9									
	3	「運動やスポーツをすることは好きである」とする小中学生の割合	%	目標値	58.1	58.5	58.9	59.3	59.7	60.1	60.5	60.9	61.3	61.7
				実績値	60.7									
	4	学校には教育活動に適した施設・設備が整っていると感じる保護者の割合	%	目標値	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0
				実績値	89.3									

３ 施策の役割分担

市民の役割	事業者の役割
• 家庭教育の支えのもと、児童・生徒は「主体的・対話的で深い学び」に取り組みます。 • 市民は、学校教育以外の場面でこどもたちと関わり、心身の育成をサポートします。 • 市民がもつ様々な知識やスキルを活用し、多様な学びの機会を提供します。	• 学校教育と連携し、事業者が持つ専門的な知識やスキルを活用し、多様な学びを提供します。

４ 施策の現状と課題および状況変化・住民意見等

※現状と課題および基本計画策定時点からの状況変化・住民意見等を記載しています。

施策の現状と課題	施策を取り巻く状況変化 関係者からの意見・要望
・個人や社会の多様性を尊重しつつ、他者と協働して問題解決を行う人材育成。 ・教育施設長寿命化計画の実行。課題は建設コストの高騰による財政負担の増加。 ・デジタル社会がさらに進み、それに対応したICT教育の充実。 ・不登校への相談支援や居場所づくりの必要性。	・学校内のネットワーク環境の整備が進み、一人一台端末の効果的な活用を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実が図られる。 ・中東情勢の悪化による急激なコスト上昇が生じている。また、老朽化が進んでいる学校について、計画の前倒しが必要となっており、学校及び保護者から早期改修を望む声がある。 ・特別な支援を要する児童生徒が増加し、特別支援教育の充実への期待が高まっている。 ・不登校児童生徒の社会的な自立を目指した「居場所づくり」の充実が求められている。

５ 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分		7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
関連事業本数		58	58			
関連事業予算額（単位：千円）		4,444,317	3,772,907			
（予算額の内訳）	国庫支出金	795,837	153,794			
	県支出金	17,036	217,909			
	地方債	1,379,200	1,847,000			
	その他	1,511,188	1,048,923			
	一般財源	741,056	505,281			

6 施策の成果水準とその背景

目標達成度 （目標値との比較）	背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）
□ 目標より高い実績値だった ☑ 目標どおりの実績値だった □ 目標より低い実績値だった	指標１の実績値は、目標値を0.4下回っている。指標２の実績値は85.9で、目標値+6.8、指標３の実績値は60.7で、目標値＋2.6であり、この２項目については、目標値を上回っている。指標４については、目標値を1.7下回っている。 一人一台端末の活用促進が図られ、端末を利用した意見共有や学び合いの授業を通して自分の考えを深めたり広げたりできていることが実感できている。
時系列比較 （どのように変化してきたか）	**背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）**
□ 成果がかなり向上した ☑ 成果は変わらない（横ばい状態） □ 成果がかなり低下した	指標２については、78.7(R4)→82.8(R5)→91.8(R6)→85.9(R7)、指標３についは、57.1(R4)→61.9(R5)→61.4(R6)→60.7(R7)となっており、コロナ禍で若干の低下が見られたが、令和４年度からは、体験活動や交流する場面も増え、ほぼ横ばいで推移している。指標４については、89.8(R4)→90.8(R5)→87.7(R6)→89.3(R7)となっており、ICT関連の整備は順次進められ、学習環境は改善されているが、施設等の老朽化も進み修繕が追いついていないことも要因となっている。
他団体比較 （近隣他市、県・国との比較など）	**背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）**
□ かなり高い成果水準である ☑ ほぼ同水準である □ かなり低い成果水準である	指標２・３については、県・国と比べほぼ同等の値である。指標２（85.9）については、県(85.9)とは等しく、国(84.4)の値よりは若干高い。指標３（60.7）については、県(61.3)よりは若干低く、国(59.1)よりは若干高い数値となっている。指標１・４については、県・国及び近隣他市において同様のデータがないため比較ができていない。

7 施策の方向性

• 知識・技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力などの人間力を育む教育を推進し、こどもたちが主体的に学習に取り組む教育の充実を図ります。
• 小中学校の教職員が互いに連携し、学習指導の継続性や生活指導の一貫性に努め、小中一貫教育を推進します。
• ふるさと教育を推進し、地域と連携・協働するこどもたちを育成します。
• 計画に基づく着実な施設整備を進めるとともに、ICT の活用やデジタル化など時代にあった環境整備を図ります。
• 安全・安心な学校給食を提供する環境を整えるとともに、食に関する知識や意識を深め、日常生活で適切な食習慣を実践できるよう、食育を推進します。
• 一人一人の教育的ニーズを把握し、個々の能力を伸長する支援や指導体制の一層の充実を図ります。
• ニーズに適応した教育相談体制を構築するとともに、教育支援センターの効果的な運営を図り、学校へ行きづらい児童生徒に寄り添った支援を行います。
• 就学を円滑に進めるため、幼・保・小の途切れのない支援を継続していきます。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度の取組（事務事業）状況・今後の課題・今後の方針

	重点事業	今年度の取り組み状況	今後の課題	今後の方針
1	主体的に学習に取り組む教育の充実	・学びの質を高める授業づくり推進事業 ・一人一台端末の入れ替えに伴い、ICT支援員、ドリルアプリ等の導入 ・体育館特別教室へのWi-Fi環境整備の着手	・授業における端末の効果的な活用。 ・授業でICT活用に向けた教職員のスキルアップ。	・指定校3校の研究推進を現在の教育課題に合わせ進めていく。 ・生成AIの教職員研修 ・体育館・特別教室にWi-Fiを令和9年2月に設置完了。
2	一人一人のニーズに即した指導体制の整備	・市単講師を39人、学力向上支援員(0.5)22人を配置し、ニーズに応じた支援の充実 ・特別支援学級・通級指導教室への入級支援 ・(6中学校の)オアシスルームの環境整備	・人員の確保に課題がある(教職員自体足りない)。 ・教員免許以外でも養護教諭(看護師)等の免許の人員も必要になってくる。 ・普通教室以外の教室確保	・小学校2校にも、オアシスルーム設置のため市単講師の増員。 ・市教育支援センター2月改修完了に向けた環境整備と運用方針の整備。支援員、相談員の確保。
3	安全・安心で時代に即した学校施設の整備	1. 若草小学校屋内運動場改築工事 2. 白根飯野小学校校舎長寿命化基本計画の策定・基本設計 3. 白根東小学校校舎長寿命化改修信頼性解析及び改修計画検討 4. 小中学校校舎LED照明設置 5. 小中学校屋内運動場の空調整備事業の事業者選定及び整備事業着手 6. 小中学校特別教室及び屋内運動場Wi-fi整備	1. 建築コストの高騰による事業費の増加の懸念。(インフレスライド) 2. 25人学級を踏まえた教室数の確保と建築コストの高騰による財政負担の増加。 3. 上記2と同様。 4. 特になし。 5. 維持管理コストの増加。 6. 特になし。	1. 令和9年度運用開始。 2. 令和9年度実施設計。令和10年、11年度に改修工事。 3. 令和9年度基本設計。令和10年度実施設計。 4. 特になし。(事業完了) 5. 令和9年10月から令和10年3月までに21校設置完了。 6. 特になし。
4	いじめ・不登校の未然防止対策の推進と多様な学びの場の確保	・教育支援センター(ウィング南教室)改築工事の着手 ・校内支援教室(オアシスルーム)の運営開始 ・QU検査の実施と分析の活用 ・いじめ未然防止講演会 ・顧問弁護士との相談体制	・教育支援センターの支援業務と併せ相談業務に対応する相談員(心理士等)の人員確保。 ・校内支援教室設置に向けた、教室や支援員の確保。 ・不登校に特化した組織づくり、人員の確保。	・教育支援センターの組織づくりと、相談員・心理士の配置 ・小学校に順次、校内支援教室の設置と市単講師の配置。
5	経年劣化した厨房設備の更新	・北部学校給食センターの洗浄機器の更新	・給食を提供しているため、更新の時期が限られる。	・計画に沿った厨房設備等の更新を実施していく